

仏様のおはなし新シリーズ第48集その2 「ハグくまさん」

作家の落合恵子さんの講演会に参加させて頂きました。子どもや女性、教育、環境、差別、人権問題に取り組まれ、子どもの本の専門店「クレヨンハウス」を主宰されています。翻訳されたカナダのニコラス・オールドランド作の「ハグくまさん」という絵本を紹介させて頂きました。

森で暮らす、何でもハグ・・・抱きしめるという意味ですが・・・ハグしてしまうクマさんが主人公です。ハグくまさんは、ハグしにくいへビでもハグした途端、強烈な臭いを発するスカンクでも何でもハグしてしまう不思議なクマです。中でも森の木が好きで大きな木も小さな木もうつとりとハグするのです。しかしある日、斧を持った人間の男が現れ、ハグくまさんが一番好きな最も大きくて長生きの美しい木を切り倒そうとしました。ハグくまさんは生まれて初めて抱きしめたくないものに出会ってしまい、かみついてやろうか、どうしたらいいんだろう・・・と考えます。さて、ハグくまさんはどういう行動を取ったのでしょうか？

人は自分中心に自分の「モノサシ」で好き嫌い決めて物を見ます。バラや蘭の花は大切にしても邪魔な草は雑草と呼び、蝶は綺麗と眺めても蛾は害虫と呼びます。仏教は「いのちあるもののうち人間を中心に考えるのは自然にそむく傲慢な考えである。人も虫も魚も鳥も血縁を超え民族国家を超えてつらなりあうこと」・・・と平等と平和を説きます。

さて、ハグくまさんは結局、男を思い切り抱きしめ、男は斧を放り出し逃げて行き、ハグくまさんも木もしあわせでした。・・・というお話です。

阿弥陀様は毎日、欲張ったり怒ったり自分中心に生きている私達を心配して「あなたが大切にすよ」と私をありのままに受け入れ「どんなあなたであつても決して見捨てない」と、はたらくき続けて下さり、この絵本のハグくまさんのように、包み込んで「ハグ」・・・抱きしめて下さいます。世のすべてのものの「いのちの尊さ」と生きる事のすばらしさを伝えてくれる物語でした。

